

マイコプラズマ 感染症の診断と治療

監修 医療法人社団 嗣業の会 外房こどもクリニック
院長 医学博士
黒木 春郎 先生



長引くせきに 注意しましょう

★「マイコプラズマ感染症」ってなに?★

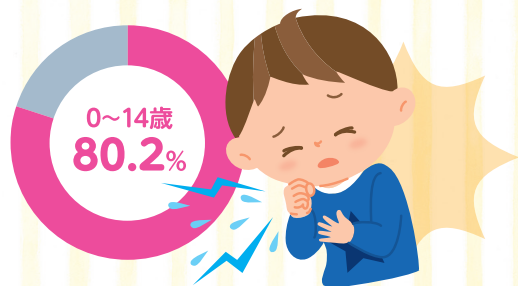
マイコプラズマ感染症は、「マイコプラズマ ニューモニエ」という菌が原因で起こる呼吸器の感染症です。

患者の報告数は近年増加傾向にあり、全体の約80%が0～14歳の小児です(図)。

初期の症状は発熱やだるさ、頭痛など、かぜに似ています。大きな特徴は長引くせきです。たんが少なく乾いたせきで、熱が下がってからも3～4週間続くこともあります。

ときに肺炎を起こし、まれに重症化することもあるので注意が必要です。

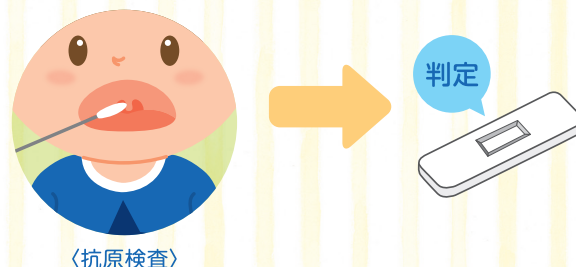
図 マイコプラズマ肺炎の年齢群別割合(2012年*)



*第35週まで
国立感染症研究所感染症情報センター：
IDWR 14(35), 1-34, 2012より作図

★どうしたらマイコプラズマ感染症とわかるの?★

マイコプラズマ感染症かどうかを調べる方法には、主に「喉の奥から菌をこすりにとって調べる抗原検査」と「採血をして調べる抗体検査」があります。抗原検査は、採血をしなくてもすむので子どもへの負担が少なく、また迅速に検査結果がわかるので簡便な検査です。



★どんな治療をするの?★

マイコプラズマ感染症の場合は、様々な感染症に使用されるβ-ラクタム系の抗菌薬は効きません。小児では主にマクロライド系という種類の抗菌薬で治療を行います。

早期診断・早期治療が大切です

有効な抗菌薬で早期に治療をしなかった場合は、重症肺炎などになるおそれもあります。

早期診断・早期治療が重症化を防ぐポイントです。

